研究室紹介

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部 防除グループ

大阪府立環境農林水産総合研究所は，大阪の環境と農林水産業を支える総合研究機関として，平成19年に環境情報センター，食とみどりの総合技術センター，水産試験場を統合して「大阪府環境農林水産総合研究所」として改組され，平成24年には地方独立行政法人へ移行しました。

食と農の研究部は，大阪産（もん）農産物の生産技術や食品加工等に関する調査研究を担当し，防除グループ，園芸グループ，葡萄グループ，食品技術グループ，食農支援グループ，栽培飼養グループの6グループが置かれています。防除グループは，農作物に発生する病害虫の診断技術や防除技術の開発等を担当し，グループリーダーを含む6名の研究員と2名の技師で業務に従事しています。以下，主な研究課題を紹介します。

大阪府からの委託業務として，「病害虫防除総合対策委託（発生予察支援）」では大阪府環境農林水産部農政室が行う発生予察事業の調査業務を支援しています。また，「大阪エコ農業推進対策研究委託」では大阪エコ農産物認証制度（化学合成農薬と化学肥料の使用を通常の半分以下にして栽培された農産物を大阪府が認証する制度）を推進するため，平成30年度はハゴボウやイチジク等特産マイナー作物の農薬登録推進，べと病など主要病害虫の薬剤感受性検定，水耕栽培野菜の病害虫対策，施設キュウリのウイルス病対策，土壌還元消毒によるトマト褐色根腐病の防除，露地ナスのアザミウマ類に対する天敵利用技術の確立，施設ブドウの総合的病害虫管理（IPM）体系の確立等に取り組んでいます。

病害分野の受託研究として，「薬剤を使用しない新たな種子消毒技術の実用化」ではプラズマ処理によるキャベツ種子の黒腐病防除，「生物農薬（BS剤）によるシュンギク葉枯病の防除法」では本病に対する微生物製剤の実用性評価に取り組んでいます。また，害虫分野の受託研究として，「ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発」ではネギアザミウマの薬剤抵抗性メカニズムの解明と総合防除技術の開発，「持続可能な農業生産のための新たな植物保護技術の開発」では施設ナス・キュウリにおける赤色LED害虫防除装置の利用技術の確立，「飛ばないナミテントウの施設利用を促進し露地利用へと拡張する代替餌システムの開発」では露地ナスをモデルとして本天敵と代替餌システム導入によるIPM体系化の検証，「サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発」では本虫の総合的な防除システムの開発に取り組んでいます。このほか，「新農薬実用化試験」にも取り組んでいます。

水耕栽培野菜の病害診断

クビアカツヤカミキリ分散防止のためのネット巻き

当グループでは，ゲノム情報，AI，ICT等先進技術を積極的に活用し，今後も環境への負荷が少なく，高品質で安全・安心な農産物生産のためのIPMに関する研究を推進します。

（グループリーダー　柴尾　学）

〒583-0862　大阪府羽曳野市尺度442
TEL　072-979-7037

植物防疫